

— 南総地区の人口 —
 人口 22,175人
 男 11,186人
 女 10,989人
 世帯数 10,211世帯
 令和元年11月1日現在

ふれあい

地域で守ろう『福祉のまち、南総』

編集 南総地区社協
 広報委員会
 発行責任者 地区社協会長
 児井敏雄
 事務局 南部エリア推進
 センター内
 電話 92-1481

会長あいさつ

今秋の台風災害に対し南総地区では、大風による被害が多数発生いたしました。今もなお被害の爪あとが残っております。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。市原市社会福祉協議会では九月の台風による被害発生以降災害ボランティアの受付、派遣を行い、ブルーシート張り、後片付けなどを実施してまいりました。さらに十月には被害処理が終了するまもなく、大雨に見舞われ一時避難された方も多数に上りました。また復旧には時間がかかると思いますが、皆様が一日も早く従来の生活に戻れますようお祈り申し上げます。さて私たちは、今回の自然災害を身をもって体験し、自

ら備える(自助)、救援など(共助)そしてさらに通信手段が途絶えた時の安否確認などが近所のお互い同士のつながりが大切であることを再確認しました。地区社協では現在、支援を必要とされる方々といかにつながるかをテーマに「第2層協議体」で議論を深めております。また私ども、南総地区社協の活動に対します、個人の皆様および企業の皆様からの賛助会費に付きまして多くの方々からご寄付を頂戴いたしました。ありがとうございます。今後とも皆様のお役に立てる組織として活動してまいりますのでよろしくお祈り申し上げます。

(会長 児井 敏雄)



南総公民館体育館避難所

※ 10月11日の台風19号接近に伴い、南総公民館体育館へ一時避難された皆様(午前11時ごろ)。夜半には大風、大雨も収まり、翌朝には皆様ご自宅へお帰りになりました。

九月九日(月)の二時〜四時頃迄、台風が東京湾を通過した際に、経験したことのない強風が家を揺らし、今にも雨戸や屋根が飛ぶのではないかと寝るどころではなかったが、幸いにも物置の雨漏りだけの被害でした。台風通過後の停電、断水、電話の不通で六日間陸の孤島状態であったが、市水道の災害用蛇口が一ヶ所設置されていたことや自衛隊が三日間給水に来てくれ、支所から水と食料を配給していただいたことで何とか耐乏生活を乗り切ることができました。今回は特に自助、共助の大切さを認識させられました。日頃から照明、携帯ラジオ、

台風一五号を経験して

水、食料備蓄と、近所同士の支えになりました。鶴舞大蔵屋団地内には二八名のひとり暮らしの高齢者が居られるので、民生委員と安心訪問員が分担し安否確認と停電の間に三回、水と食料の配布を行うとともに、雨漏りで困っている方や骨折で不自由な方に空家探しや入院の対応を行いました。

今回の災害を経験して感じたことは、初期の活動時には自治会の若い方が不在で、高齢者が連絡や水、食料の支援に動きましたが十分に連絡が行き届かなかったことでした。今後の教訓として、若い方達や在宅の奥様達の協力体制を如何にして確保するかが重要であると思います。

(編集委員)

福祉バザー



十一月十七日(日)、「歳末たすけあい運動」の一環として南総公民館にて開催致しました。当日は天候にも恵まれ、多くの方がオープンを待ちわび並んでいました。今秋は市原でも経験したことのない風水害が発生しましたので、寄付品への影響も懸念されました。農作物の寄付品が昨年に比べ少なかったと感じましたが、「お楽しみコーナー」や「喫茶コーナー」ではたくさんの方の笑顔が溢れていました。ご協力頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。「歳末たすけあい運動」は、今後も南総地区社協の各団体の皆様にご尽力、ご支援を賜りながら実施してまいります。

【令和元年度福祉バザー実績報告】

バザー売上げ	438,015円
模擬店売上げ	5,400円
寄附金	150,353円
合計	593,768円



会場内でご協力いただいた義援金は「市原市災害義援金」として市内の復興支援に役立てられます。ご協力ありがとうございました。

賛助会費実績報告

南総地区社協では、平成二十八年から賛助会費のご協力をお願いしております。本年度も多くの個人、企業、団体の皆様からご支援を頂き、十一月末現在で百二十八万八千円となりました。皆さまの厚意に深く感謝申し上げます。ご協力頂きました賛助会費は、地区社協の独自事業推進のための貴重な財源として有効に活用させて頂きまします。今後益々増大する地域福祉課題に対して、各種団体のご支援ご協力の下、皆様が生涯この南総で安心して暮らせるまちづくりの構築に努めてまいります。今後とも地区社協運営にご理解ご協力をよろしくお祈り致します。

令和元年度南総地区賛助会費実績報告 (R1, 11月末現在)

区分	協力者数	金額
個人	835	1,078,000円
団体	40	210,000円
合計	875	1,288,000円

表彰おめでとうございます

- 市原市表彰(自治功労) 岩崎 重信さん(皆吉) 一七年にわたり、民生委員・児童委員として地域の住民福祉増進に尽力された
- 市原市表彰(自治功労) 伊藤 勝利さん(上高根) 一五年にわたり、町会長としてコミュニティの振興に尽力された
- 市原市表彰(社会功労) 石井 堯栄さん(宿) 一五年にわたり、市原市青少年相談員として青少年の健全育成に尽力された
- 市原市表彰(社会功労) 小澤 孝至さん(馬立) 一五年にわたり、市原市青少年相談員として青少年の健全育成に尽力された



トピックス

燦たり、戸田小!

去る十一月十六日(土)に戸田小学校体育館において、戸田体育研究九〇周年記念式典が挙行され、その後、五井グランドホテルにおいて祝賀会が盛大に開催されました。

戸田体育研究は、昭和五年まで遡ります。その起りには、時の伊藤貞蔵村長が、関東大震災後の戸田村の荒廃ぶりを憂い、村の興隆は子供たちの教育と健全育成にあるとし、体育を基軸とした教育を戸田小に導入することを英断したことからはじまります。

この英断を実行するために村長は千葉師範時代の盟友である根本親先生(千種村出身)を当時勤務していた佐倉の学校から戸田小学校長として招聘しました。

また、体育指導については、当時日本の体育の第一人者であった財団法人三橋体育研究所長の三橋喜久雄先生にお願いしたことから、現在も連続と続く、戸田体育研究の歴史が幕を開けました。

ちなみに三橋先生は、戦後の復興期に我々が慣れ親しんでいるラジオ体操の制作にも尽力された方です。

昭和五年に産声を上げた戸田体育研究は、太平洋戦争の苦難の時代でさえ、一度も休むことなく、今年で遂に九〇周年を迎えました。

何故、戸田体育研究は今まで昇華してきたのでしょうか。三橋先生が研究を続けていた体育は、「真体育」とか「三橋体育」とも言われ、

当時の文部省が考える体育とは一線を画していたことから、戦時中は国からも圧力をかけられたこともありましたが、三橋先生と繋がっている戸田小も同様に苦難の時代があったのでした。

しかし、その苦難さえも乗り越えてきた「戸田体育」とは、何なのか。その答えは、伊藤村長は、教養を身に付けることはもちろんのこと、人を育むことに教育の意義を見据えていたこと。そして、村長の志を正しく理解した三橋先生の進める「真体育」も、体操の技量だけに集中するのではなく、まさに人を育てることにその眼目を置いていたことが一致していたこと、さらに保護者や地域の人々はこの戸田小で展開される教育を信じ、戸田体育研究の実践を物心ともに応援をしてきたことにつながると考えます。

国家百年の大計とも言われる教育ですが、戸田小は、この大計を学校・地域・家庭の強固な連携と三橋体育研究所の長きにわたる支援により、見事に貫いているのです。



100周年につなぐ

民生委員児童委員名簿

氏名	担当地区
高崎 久美	米原、上畑、桜ヶ丘団地
竹下 康子	根古屋、小草畑
川野 百合子	宿滝、平沢
河津 正雄	山小川、上田尾、下田尾
安藤 和子	般若寺、久保代、池和田
高山 良明	矢田、下矢田
大岩 順子	鶴城(第1~第3)、大手
杉田 浩一	日枝、中部、亀井橋、南町、共栄
佐々木 絹子	鶴舞大蔵屋団地
麻生 テル	鶴舞大蔵屋団地、富士台
河内 キヨ子	水沢、奥野、市場
秦 三千江	堀越、島田、宿
宇佐美 輝芳	真ヶ谷、黄金台、石川、古宿、原田
小泉 渥美	安久谷、米沢、江子田、送り神
平野 友恵	岩、中、藪
鈴木 良和	牛久ニュータウン、牛久団地
長島 喜光	牛久第1
加藤 彰廣	牛久第2、牛久東
田中 信廣	牛久第4、楓団地
鈴木 みち	牛久第3
高浦 幹夫	奉免、妙香、正美、奉免南
岩地 重光	西国吉、大蔵
古川 光子	皆吉団地、わかば台、学園台
田中 博	皆吉、金沢、志保井
石田 壽一	佐是、佐是団地
鶴岡 富士夫	沢辺、根本、光ヶ丘、上原
田崎 信隆	新町、馬立さかえ、曲本、緑幸台、馬立グリーンタウン
鈴木 清治	上区第1、第2、下区、みどり台、鹿島台、さつき台、のぞみ
渡邊 里美	田村1~16組、新栄
高橋 久男	日の出、馬立新生、サンエー、田村17~22組、新田の一部
鈴木 俊明	光風台南、新田の一部
松崎 照男	新田の一部
杉野 禎一	風戸、寺の下、七日市場、久保
塙 貞雄	開墾、双葉、中高根若葉、南ノ原、パードヒルズ
齋藤 富美枝	並塚、馬場台坂、上高根平成、高根台
黒澤 玲子	吉野台
大畑 廣志	西国吉台団地
森 由美子	ときわ台
御簾納 正一	南岩崎、枝、寺谷、栢橋、菅の谷台
小牧 芳子	小勝山団地1~4区
小野 寺 巖	小勝山団地5~7区
志村 絵美	主任児童委員
河崎 順子	主任児童委員

戸田体育研究九〇周年記念事業は、この戸田小に学ぶ子どもたちの健やかな成長と社会での活躍を一心に念じ指導にあたった数多くの先生方の想いとそれを応援し続けた三橋体育研究所、地域の人々の想いが凝縮された祭典となりました。



大人も子どもも真剣になります

牛久小学校区小域福祉ネットワーク

青少年部会の活動

牛久小学校区小域福祉ネットワーク「青少年部会」は、『これからの未来を担う子ども達のために』をモットーに今年七月二十八日に、なのはな館で行われた「こどもフェスタ」に協力して昔のあそびコーナーを設け、子どもたちと楽しくあそぶことができました。

牛久小学校では十一月二十日に一年生を対象にした「昔のおもちゃであそぼう」が行われました。お手玉や羽根つき、けん玉など、昔は普通に行われていた遊びを一年生の子どもたちに楽しく体験してもらいたいと思っています。

また、来年一月三十日には卒業を控えた六年生に、消防署の人たちに協力してもらい、三角巾を使用した救急法などを体験してもらいます。

「中学校の帰りに友達に怪我をした時に使った。三角巾が役に立った」という声を聞きました。凄くうれしいことですね。

少子高齢化が進む昨今、子どもたちにはスクスクと成長してもらいたいと思います。

(青少年部会長 小柳 正公)

民生委員児童委員協議会 新会長 田中 博さん

この度、南総地区民生委員児童委員協議会会長を拝命いたしました。

今回の人事については、二月一日付けをもって民生児童委員の全国一斉改選に伴い南総地区においても四三名が厚生労働省から委嘱されたことによるものであります。

昨今の社会状況は、少子高齢化の進行、老老介護、生活困窮や児童・高齢者・障がい者への虐待等々、福祉の課題は多様化複雑化してきており、支援方法も難しくなっております。

このような状況下ではあります。互いに支えあい、安心して暮らせる地域共生社会の実現に向け、微力ではありますが努力してまいりますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

なのはな館情報

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックまであと七ヶ月となりました。

なのはな館でも毎年、パラリンピックの公式種目でもある「ボッチャ」を通じて、地域住民の居場所作りと障がいのある方との相互理解を目的に、交流会を開催しています。

早いもので十二月も半ばとなりました。

元号も令和となり、ノーベル賞の受賞や即位の礼、即位祝賀パレードとめでたいことが続きました。

しかし一方では秋には三つの台風により大きな被害を受けました。住宅や道路、鉄道に農作物と被害も広範囲となりました。

そして停電に断水です。今まで気づかなかった電気や水のありがたさを痛感しました。未だにブルーシートの屋根があるうちに多く見られますが早く復旧したいものです。

今、市や市社協で「通いの場」事業を進めています。高齢者のための大事な事業であり、今後の広がりが期待されます。

歩いていける場所、月に一回以上の開催などが条件となっております。

山間地や小さな集落では実施にあたっての課題も残されています。

正月も間近です。健康に留意し皆で良い年を迎えたいものです。

- 編集委員**
- 中島 雅人 (戸田)
 - 河津 敏郎 (内田)
 - 伊藤 陽子 (寺谷)
 - 加藤 功 (牛久)
 - 大井 守 (鶴舞)
 - 金高 義幸 (平三)
 - 牧野 雅夫 (社協)

